

2021年9月19日 聖霊降臨後第十七主日礼拝説教
「与えるために受けたもの」(マルコ9章30～35節)

○マルコ9章30～32節について

「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。」(31節)

十字架の上で死なれるために、エルサレムへ向かわれていた神の子イエスは、再び弟子たちに、ご自身の〈死と復活〉について話された。けれども「弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。」(32節)

問：この時、弟子たちは、なにを恐れていたのか？

救い主イエスの苦しみと死について知らされた弟子たちは、死によってキリストを失い、彼らだけが取り残されるのを恐れた。この時も、救い主イエスは、ご自身の死だけでなく復活について語られたが、未だ弟子たちは悟れずにいた。

「(キリストは) 殺されて三日の後に復活する」(31節)

○マルコ9章33～35節について

「(弟子たちは) だれがいちばん偉いかと議論し合っていた」(34節)

神の子イエスが十字架を目指し歩みを進めておられたにも関わらず、弟子たちは、彼らを選ばれ、これから十字架の死という最も優れたわざを成されるキリストに眼も止めず、世の考えに従って「だれが偉いのか」と話し合っていた。

今日のみことば：マルコ9章35節

「イエスが座り、十二人^{すわ}を呼び寄せ^{じゅうににん}て言われた。『いちばん先^よになりたい者^いはすべての人^{さき}の後^{もの}となり、すべての人^{ひと}に仕える者^{あと}になりなさい。』」

救い主イエスは、誰よりも低い者、人々の後に立つ者として蔑まれ、苦しめられ、神からも見捨てられ、十字架の上で、すべての人を救うために、尊きいのちを献げられた。

※わたしたちも、人より先立ちたいと逸る思いに流されず、絶えず十字架を心に刻みつつ、神から受けているものを自らの誇りとせず、神の救いと御心のために献げよう。